令和４年度第１回　神戸市子ども・子育て会議　議事要旨

日時：令和４年11月10日（木）10時～11時50分
場所：三宮研修センター　705号室

１．開会

２．議事

（１）令和３年度 神戸市子ども・子育て支援事業計画及び神戸市次世代育成支援対策推進行動計画「神戸っ子すこやかプラン 2024」の検証について

●事務局

資料１により説明。（省略）

○委員

・子育てリフレッシュステイを利用した理由に「育児疲れ」が圧倒的に多い。明石市では「ショートステイ里親」という制度があり、これは国の制度であるショートステイを活用していると思う。利用が増えており、今では預かる方の約８割が里親になっている。同じ小学校区内に里親がいれば、学校にもそのまま行けるなどの利点があり、地域の子どもを地域の里親が預かることで虐待防止にも繋がっていると思うが、神戸市では独自制度で実施しているのか。

・育児疲れで限界まで辛抱していたような方が、２、３日でも預かってもらうことで、リフレッシュできてまた頑張れるというような声もあるので、神戸市でもショートステイやリフレッシュステイのなかで里親を活用できればと思う。

●事務局

・神戸市の子育てリフレッシュステイは、国の制度に先駆けて神戸市が立ち上げたということもあり、一部国の負担を得ながら、児童養護施設やファミリーホーム等で実施している。

・明石市のショートステイ里親について把握はしているが、神戸市では一時保育にも利用者が流れていることもあり、児童養護施設等を活用したリフレッシュステイは減少傾向が続いている。

・一方で「リフレッシュ」や「育児疲れ」を理由に利用される方が多くいらっしゃるとも認識しているため、今後もコロナの動向を注視しながら、研究していきたい。

○委員

・人口 30 万人の明石市でも、年間延べ 1,000 日以上の利用があるようなので、神戸市でも、もっとニーズがあるのではないかと思う。今後の課題として検討いただきたい。

○委員

・関連することだが、幼稚園では預かり保育、保育園や認定こども園では一時預かり事業を実施しており、幼稚園での預かり保育は、預ける理由が就労であってもリフレッシュ

であっても同じ金額で預かっている。一方、一時預かり事業では園に来ていない子どもが対象であり、理由に応じて料金が異なっている。その中でもリフレッシュの利用料設定が一番高い。

・神戸市では育児疲れや虐待に近い状況にあるような方を含め、日中、預かり保育や一時預かり事業を利用し、リフレッシュしておられる方が現実に多いように思う。

・一方で、一時預かり事業のリフレッシュ利用は料金が高くて利用ができなかったり、利用上限の日数が決まっているため、上限を超えて利用すると料金が高くなってしまうことから、利用の妨げになっている。

・幼稚園が実施している預かり保育について、保護者負担への支援はないので、そこを実施すれば、より一層利用が進むと思う。

○委員

・リフレッシュステイについては宿泊までできるという点で魅力が大きく、２、３日の宿泊のニーズは非常に多いため、そういうニーズに応えていく手段があれば助かる人もいるのではないかと思う。

○議長

・経済的な負担という意味では、負担のない児童相談所における一時保護も増えてきているのではないかと思うが、データはあるか。

●事務局

・日中預かっていただきたいという方は幼稚園や保育園で預け、夜も預かってほしいという方は児童養護施設やファミリーホームを利用していただくなど、状況に応じて使い分けていただくことが、適切であると考えている。

・また児童相談所による一時保護については措置にあたるため、利用形態が異なると考える。虐待の通報件数自体は増えているものの、現状そこまで大きく増えている状況にはない。

○委員

・保育所等の利用者アンケートのなかで「今後充実してほしい支援策」として「病児保育の拡充」を選択されている方が多くおられ、病児保育の利用者アンケートでは「利用できなくて困ったことがある」と回答された方が約６割いる。理由は、施設がいっぱいで断られた、近くになかったなど様々あると思うが、どのような対策を考えているのか。

●事務局

・病児保育について、神戸市は政令指定都市の中でもトップクラスの数を整備している。平時の利用は少ないが、インフルエンザなどの季節性の感染症が流行している時季等には一気に利用者が増加するため、利用できない状況があることも想定される。

・神戸市としても、運営の基盤となる基礎部分の委託費を充実させ、支援を行っている。

○委員

・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、経営的にも難しい部分もあると思うが、保護

者の具体的なニーズも重要だと思う。それらを反映させることも検討いただきたい。

○委員

・企業の状況の資料については、これまでのアンケートから変更されており、神戸市内の企業の状況がよくわかるようになっている。

・「神戸っ子すこやかプラン 2024」の第 6 章にある「子育てしやすく働きやすい職場環境の啓発」のところで、「企業等啓発事業」と「こうべ男女いきいき事業所表彰」が入っている。コロナ禍において難しい部分もあると思うが、令和３年度にどのような取組をされたのか、「こうべ男女いきいき事業所表彰」の推移や、プランに掲げているこの２つを推進していく中で、神戸市の事業者の方からの声や悩みなどを把握していれば教示いただきたい。

●事務局

・中小企業については、体制や資金的な問題もあり、こういった取組を推進することが難しいという声は聞いている。中小企業の振興などを行う経済観光局と連携しながら、引き続き取り組んでいきたい。

・表彰制度については確認し、改めて委員にご連絡をさせていただく。

○委員

・神戸の地域としての子育て力を上げていくことが、この「神戸っ子すこやかプラン 2024」の主眼だと思うので、そういった部分を見えやすく検証いただけたらと思う。

○委員

・神戸市ではここ数年、保育施設の充実に力をいれている一方で、０歳～２歳までは家庭で過ごしている方が非常に多く、コロナ禍もあって、同時期に産院で出産する人たちの交流が非常に難しくなっている。

・また、働く人も増えたために出産までの準備期間も非常に短く、誰にも会わない状態で出産を迎え、その後も感染が不安なので誰にも会わず家族と過ごすという状況が見られた。昨年度は地域の子育てひろばの開催も難しく、我々もウェブサロンなどの実施に協力したが、想像以上にかなり厳しい状況だと思った。出産前後は不安も多く、産後は不安も高まる。家族以外の同じ境遇の人と感情の共有ができることが重要だと思う。

・神戸市では、２歳児までの子どもを家庭保育している人たちへの支援が拠点展開されており、おやこふらっとひろばは区役所内に設置されていることから、安心・安全で参加しやすい施設である。昨年度開設したばかりということもあるのか、アンケートの母数も少なく、コロナ禍で利用できる人数が少ない状況なのかと思う。

・担い手の問題もあり、各学校区程度のところで主任児童委員などの力を借りながら展開してきた地域の子育て支援が、現在は壊滅状態あるいは細々としたものになってきており、生活圏内レベルでの支援の展開を今後考えていただきたいと思う。拠点をもう少し増やすなど、検討していることがあれば教示いただきたい。

●事務局

・地域の子育てをどう支えていくか、地域で子育てされている方をどう支えていくかというのは非常に重要な課題であると認識している。

・神戸市の児童館は現在 117 館あり、中学校区に１か所以上あるような状況である。在宅育児の支援を行っており、以前は登録型の事業が多かったが、自由に来館できるようなメニューを増やすなどの取組などもしている。

・さらにコロナ禍で難しいところもあるが、保育園や幼稚園、認定こども園での園庭開放をはじめ、様々な形で地域の専門の方の力をお借りしながら、地域で安心して子育てできるような、そういった環境づくりを進めていきたい。

・また医療機関での両親教室の開催が難しいという状況もあり、オンラインでの実施を始めている。コロナ禍で対面実施できなくなったことをデジタル技術なども活用しながら、しっかり支えていきたい。引き続き、様々な支援を利用されている方の声も聴きながら、どういったことができるか検討させていただきたい。

〇委員

・「育児に関する情報をどこから入手しているか」という設問において、「その他」を選択した人の情報の入手先のところについてだが、神戸市が一生懸命「ママフレ」に関して宣伝したり、工夫したりしている中で伸び悩んでいるように見受けられる。回答として多い、SNS との関わりなどで検討していることがあれば教示いただきたい。

・「神戸で子育てしてよかったと思う」と回答する人の数字がなかなか伸びないというのがとてももったいないと思う。他都市の影響もあるように思うが、実際には、神戸市は非常に充実した様々な子育て支援を実施している。神戸で子育てをして良かったと思う理由の１位と２位には神戸市ならではのものがあがっているが、神戸市だからこそのメリットのようなものが市民の方に伝わればいいと思う。本当はいろいろとやっているがそれが伝わっていない感じがするので、イメージアップのようなことで何か考えていることがあればお伺いしたい。

●事務局

・「ママフレ」について、情報の入手先としての利用がそこまで伸びていないことは現状として受け止めている。一方で、SNS がよく活用されているということで、近年「ママフレ部」という形でインスタグラム等のＳＮＳを活用した広報に特に力を入れて進めている。「ママフレ部」で部員となり、実際に市内で子育てをしているお母さん方が日々の暮らしをＳＮＳで投稿しているものをきっかけに、「ママフレ」サイトにもつなげていく形が取れないかということで取り組んでいる。また、「ママフレ」自体も構築から１０年が経過しているため、今年度、リニューアルに着手し始めたところである。まだ、事業者公募の段階だが、今の子育て世代の方が使いやすいようなサイトになっていくようリニューアルを進めていき、その機会にあわせて新サイトの広報も行いたいと考えている。

・神戸市ならではの自然環境や地域など、子どもをみんなで育んでいくという環境が整っていることは、神戸市が持つポテンシャルであり、それをしっかりと発信していくことが大事であると考えている。また、そのイメージを植えつけていくことも大事であると考えているため、広報戦略部と連携し、子育て広報をさらに強力に進めていくために検討を進めているところである。「ママフレ」のリニューアルもあわせて、情報の発信に力を入れてまいりたい。

（２）神戸市子ども・子育て支援事業計画　教育・保育の量の見込みと提供体制の確保に関する中間年の見直しについて

〇議長

・本件については教育・保育部会で議論の上、当会において報告いただくということで、令和４年３月７日のこの会議において委員の皆様に了承いただいているところである。では、事務局よりご報告をお願いする。

●事務局

資料２により説明。（省略）

〇議長

・教育・保育部会で既に議論いただいている内容であるため、補足があれば部会長よりお願いしたい。

〇委員

・説得力のある資料に基づき意見交換をして、承認しているため、これ以上の補足はない。

（３）神戸市子ども・子育て支援事業計画　地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと提供体制の確保に関する中間年の見直しについて

●事務局

資料３により説明。（省略）

〇委員

・地域子育て支援センター事業の令和３年４月１日時点の箇所数が 12 となっているが、これは応援プラザの数という認識で間違いないか。今年度応援プラザがなくなっているが、数字としてどこに表れているのか。

●事務局

・今年度から事業の見直しを行っているため、以降、置き換わるが、ご覧いただいているのは令和３年４月時点の数字である。

〇委員

・子育て応援プラザが定着してきたところで廃止になってしまったと思っている。アンケ

ートの結果にもよると思うが、この辺りもまた検討していただきたい。

○委員

・利用希望把握調査の調査対象者の範囲を教示いただきたい。また、調査票はどのように配布するのか。調査結果に信頼性を持たせるためにも、ぜひ回答率をあげる工夫をしていただきたい。

●事務局

・調査の具体的な実施方法等はこれから決めていくことになるが、前回の調査時は、就学前の児童の保護者の方２万人と、小学校低学年の保護者の方１万人、小学校高学年の保護者の方１万人、それから小学校高学年の児童本人に１万人という形で、５万人・４万世帯を対象に実施している。

・前回の調査時は、住民基本台帳から無作為抽出した調査対象者に調査票を郵送し、回答いただいた。来年度の調査方法について郵送にするのかウェブにするのかなどの詳細は今後検討していくことになる。

・回答・集計の手間や回収率のことを考慮し、検討していく。

○議長

・現計画の見直しは行わないということで異議はないか。

（異議なし）

○議長

・異議なしということで、事務局に進めてもらう。

（４）「神戸市子どもの生活状況に関する実態調査」の結果について

●事務局

資料４により説明。（省略）

○委員

・物価高騰により貧困問題は今後も大きくなっていくことになると思うが、貧困問題は子どもにも大きな影響を及ぼしているということがこの調査で分かる。医療費や保育料、給食費や住宅費など、神戸市でも低所得世帯への支援施策をいろいろと打ち出していると思うが、実際どのような施策があるのか。

・子ども食堂など、夕方から夜にかけての子どもの居場所を提供している団体など、神戸市としてどのくらい把握しているのかお伺いしたい。

●事務局

・神戸市全体の施策を全てこの場でお示しするのは難しいが、例えばこども医療費でいうと０～２歳は無料、小中学生は１回の通院が 400 円で、従前は所得制限を設けていた

が、現在では所得制限を撤廃している。また、今年９月からは高校生の通学定期券への補助を開始しているが、神戸市も今や淡路島までが一つの学区になっているなか、通学に年間十万円単位のお金がかかるという方もおられる。通いたい学校に通わせてあげることが重要であるという観点で所得制限は設けずに実施している。

・子ども食堂や食支援についても、基本的には困っている方を対象としていると言っている場面もあるが、所得により制限を設けることなく幅広く支援している。一方で、例えば国の制度による児童手当や児童扶養手当は、所得に応じて支援をする仕組みになっているため、その辺りを組み合わせながら、目的や性質に合わせて所得制限を設けるべきかどうか、適切に判断をしながら取組を進めていきたい。

〇委員

・我々の「ふぅのひろば」の活動の中でも、例えば、勉強しなければいけない時間や余暇で過ごせる時間など、自分の時間を割いて家族の世話をするというのをケアラーとして判断する一つの目安にして、居場所づくりに取り組んでいる。

・今回、この調査を初めて実施したということで、継続的に調査を実施し、活動によってどのような結果が出るのかを見定めていく必要がある。神戸市独自の調査として実施いただくことは非常に嬉しいし、今後のケアラーの支援に役立てるものになる。ぜひこの貴重なアンケートを継続していただきたい。

〇委員

・新型コロナウイルス感染症の影響で困っていることについて、「生活リズムの乱れ」とあるが、生活リズムの乱れから学業の遅れなどにつながっていくため、生活リズムというのは大事である。

・そこで提案したいのが、「青少年の健全育成は挨拶から」ということで、登下校時の挨拶運動を地域ぐるみで取り組み、これを小さな地域から全市的に展開していくことである。

・学校も含めて地域ぐるみで推進し、元気を出す施策を提案したいし、また、実行していきたいと思っている。人間関係が年々希薄になっていく中、特にコロナ禍ということもあり、コミュニティの分断と遮断に拍車がかかっている状況である。

・これを解決するには、やはり朝一番からの生活リズムを作り出す挨拶や元気を出す声かけ運動であり、それが社会関係、知り合いづくりにつながって明るい子供たちの笑顔を取り戻すことができるのだと思う。

・以前あった「次世代のこどもを育む市民会議」でも「笑顔、挨拶、ありがとう」という合言葉があった。

・一日の始まりは挨拶から、生活リズムは挨拶から取り戻そうということ、そして全市的にも応援していただいて実践していく、これが元気を取り戻す、生活リズムを取り戻す１つの提案である。また、神戸市のほうでも検討いただき、バックアップしていただければと思う。

○議長

・本日の議題にはないが、事務局より報告があるとのことなのでお願いしたい。

●事務局

・前回、前々回の当会において、児童館の今後の在り方について、現場の皆様の意見を聞く場を作ってほしいという意見を委員から頂戴していた。また、国では来年４月のこども家庭庁創設に向け、今後の児童館の在り方に関する議論も進められているところである。

・こういった状況を踏まえ、今後の児童館の施策の方向性や、現状や今後の課題等について、一度現場の皆様と意見交換する場を持たせていただきたく。年内を目途に意見交換会を開催できればと思っている。

○委員

・意見交換会の実現について、お礼を申し上げる。今日もいろいろな意見あったが、様々な場面で児童館が担えることがたくさんあるように思う。

・例えば「もう子供を虐待しそうやねん」と駆け込んできた親がいて、子どもが一時的に施設にいくことになったけれど、そこから自宅に帰ってきて、「助かったわ」、「また助けてね」というようなこともある。今後、児童館も頑張っていきたいと思うので、応援していただきたい。

第１回　神戸市子ども・子育て会議　委員追加意見要旨

○　制度を熟知していないと利用が難しいことも多いように思うため、一時預かり、リフレッシュステイ、ショートステイ、里親、ファミリーサポートといった制度の利用に関する入り口を一本化できないか。

○　高齢出産がすすみ、親が児童の祖父母に頼ることが難しいケースが増えている。里親制度は預けるだけでなく地域祖父母的役割を担えるのではないか。

○　児童館や公立幼稚園、地域福祉センターといった施設にコーディネーターを配置することで、０歳から２歳（特に出産後１年）の時期の支援が充実するのではないか。
　子育ての専門職ではなくとも、制度をある程度知っている方が身近にいれば、様々な機関との橋渡しができる。枝葉にたどり着くための入り口は少ない方がよく、全体的な仕組みを検討していただけないか。

○　神戸市のホームページは整理されているので、そこへ誘導するような SNS 発信があればいい。

○　公立幼稚園のパンフレットが少し味気ない。公立幼稚園の入園者の減少が課題とも聞く。イメージアップのための工夫ができればいいのではないか。

○　「神戸っ子すこやかプラン 2024」は情報量が多く、利用者がニーズに素早く辿り着きづらい。プラン全体をポップにまとめたページを掲載すると広まりやすくなるのではないか。

○　「神戸市子どもの生活状況に関する実態調査」は学校現場でも活用するべき貴重なデータである。教育委員会事務局とも連携し、活用していただきたい。